かわべ

発行
河辺村公民館
編集
館報編集委員会
電話 河辺 17番
印刷所 (有) 藤田印刷所
大洲市常磐町 ☎3273番

―家庭教育調査から―

さき頃、ある小学校の五・六年生の児童をもつ家庭を対象にして〝家庭のしつけ〟などの点について両親に質問してみました。

以下、簡単に紹介してみましょう。

問一　あなたの家庭では、お子さんに「外出する時、行き先や帰る時刻を言うように」指導していますか。

(1)十分している　四四%
(2)だいたいしている　五二%
(3)とくにしていない　四%

●「指導している」が七二%あり、「だれが指導していますか」に対して母親が九二%と、ほとんどである。

問二　「お金の大切さについて」おしえていますか。

(1)十分している　六四%
(2)だいたいしている　二八%
(3)とくにしていない　八%

●お金の大切さについては九二%の家庭が教えており、「お金の使い方はどうですか」に対しては、一六%の家庭からムダ使いをして困ると答えがあった。

指導は母親と答えた家庭が七四%である。

問三　勤労はお金のためだけでなく社会に尽くしているということをわからせていますか。

(1)十分している　八%
(2)だいたいしている　六〇%
(3)とくにしていない　三二%

●おしえていないと答えた家庭が三二%もあり、やはりお金のために働いているという考えが強い。

指導については父親の役割で七六%と多い。

問四　祖先のありがたさについておしえていますか。

(1)十分している　二八%
(2)だいたいしている　三六%
(3)とくにしていない　三六%

●「とくにおしえていない」が三六%あり、他の質問に対してめだっている。

祖父母がおしえている家庭二五%あり、祖父母の役割があらわれている。

問五　「勉強することが将来の人生にどんな意味をもっているかについて」おしえていますか。

(1)十分している　四〇%
(2)だいたいしている　五二%
(3)とくにしていない　八%

●このことについては九二%とほとんどの家庭がおしえている。この指導は母親が七四%と多い。

問六　「あなたが今、お子さんにどんな願いや希望をもっているかについて」話し合うことがありますか。

(1)よくある　一六%
(2)ときどきある　六四%
(3)とくにない　二〇%

●「話し合っていない」二〇%あり、おもにだれと話し合いますかについては父親二〇%、母親八〇%と多い。

問七　あなたの家庭では、お子さんと話し合うことがらはおもにどんなことですか。

(1)勉強のこと　四四%
(2)友だちのこと　一二%
(3)家庭のこと　三二%
(4)その他　一二%

●やはり勉強のことが四四%と多く、次に家庭のことが三二%となっている。親子の話し合う時は夕食後が六八%、次いで夕食時が三二%ということである。又話し合う時間としては、三〇分以内の家庭が七二%でもっとも多い。

問八　あなたの家庭でのしつけは親の思うように教育ができていると思いますか。

(1)できている　二〇%
(2)できていない　八〇%

●家庭でのしつけができていないと答えた家庭が八〇%あり、できていない理由としては、「テレビ・マンガの影響が強い」というのが六五%。次いで「忙しいので子供にかまっておれないから」が二〇%と多い。

九月十五日敬老の日に村内四ケ所で敬老会が行なわれました。

今年度は六十五才以上の方二百十九人(該当者二百四十六人)が出席し、まずそれぞれの会場で式典が行なわれ、米寿を迎えられた七人に記念品などが贈られました。式終了後は、婦人会による歌や踊りで、一日を愉快に過ごされました。〝米寿〟の方は次のとおり。

下大成　水本　仙松
中大成　井上ダダヨ
橡　谷　藤岡吉之進
露　内　佐伯　ツネ
川　崎　岩井オツヤ
神　納　関井　一
国　木　栗田　重男

河辺村人口動態

(S. 50. 10月1日現)

世帯数	641
人口	2,485
男子	1,248
女子	1,237

(S. 45. 10月現)

世帯数	718
人口	2,810

(S. 40. 10月現)

世帯数	756
人口	3,599

わが村の経済を支える主産物

昭和四十九年度に、当村の面積五三、三七平方キロメートル(約五、三〇〇町歩)から生まれ、私たちの生活を守ってくれた農林業の生産物には、どのようなものがあったでしょうか?

資料の確実性について

左のような数字が示されておりますが、しかしこの内容は絶対に責任の持てるものかと申しますと残念ながら一、二の作目を除いて確度の高い結果とはいえないようです。

生産者の方々に昔の考え方、たとえば近所へ対する気兼、税金加重の心配など、いろいろあるようですが、このような考え方が、間違った結果をうんで大きな損を招くといったようなことがしばしばあります。

村では、八方手をつくして実情に近い資料を作るよう努力はしておりますが、皆さんのご協力がないと成果が挙がりません。

統計の資料は〝絶対〟税金などの参考にはしませんから、正しい申告をしていただくようこのさい特にお願いをいたします。

作目	栽培面積等	生産量	流通量	流通金額
しいたけ		55,000 kg	50,000 kg	140,000 千円
木材	4,462 ha	4,500 ㎥	4,000 ㎥	120,000
くり	246	476,000 kg	456,000 kg	98,000
葉たばこ	22	63,000 kg	63,000 kg	70,000
まゆ	28	15,000 kg	15,000 kg	38,000
畜産(牛)	105頭	生産 30 頭 肥育 30 頭	左同	8,000
米	80	205,000 kg	31,000 kg	7,000
野菜	33	536,000 kg		

流通量とは生産されたもののうち、現金収入になったものを示します。野菜については、相当大きな生産量がありますがほとんどが自家消費と見込まれます。

敬老の日に思うこと

原　惣太郎

去る九月十五日(敬老の日)、村・婦人会主催の敬老会に招かれて出席しました。

各有志の方々から、お祝いの言葉や、かず〳〵の慰安行事と御馳走になり、楽しい一日を過ごすことができたことは、誠に感謝の至りです。

しかし、今日まで自分が歩んで来た道を静かに振りかえってみる時、自分さえ良ければ他人はどうでもよい、と言ったようなことはなかったであろうか。

〝共存共栄の精神〟それがどこまで真剣であっただろうか。

お年寄りと呼ばれて恥ずかしくない生き方ができてきただろうか、と反省してみた時、私は冷汗三斗の思いがせずにはいられなかったのです。

現在の青壮年達も、やがて〝お年寄り〟と敬意をもって呼ばれる時が必ず来るのです。どうぞ、その時には「お年寄りの皆さん」と呼びかけられても、恥ずかしくない過去を持った「お年寄り」になってくださることを切望してやみません。

私が座右の銘にしている道歌を三首紹介いたします。

上みれば及ばぬことの多かりき
笠きて暮らせ己が心に
問えばとい答えばこたう山彦の
答うる声もとう人の声
成せばなるなさねばならぬ何事も
ならぬは人のなさぬなりけり

◎運営審議会委員きまる

任期(五〇・九・一～五二・八・三一)

森川重生(学識経験者)
山之内教善(学校長)
稲月　武(〃　〃)
黒田憲治(〃　〃)
武井　享(〃　〃)
清水マサ子(団体の代表者)
武田福男(〃　〃)
五頭建市(〃　〃)
大森高知(学識経験者)
山崎道博(〃　〃)
高木亀男(〃　〃)
新　滋子(〃　〃)
吉野里子(〃　〃)
山本エツ子(〃　〃)
和気サヨ子(〃　〃)
(以上十五名)

◎館長・分館長きまる

十月一日付をもって、新しく館長・分館長が委嘱されました。

公民館長　藤岡秀男
植松分館長　松本久雄
坂本分館長　清水道則
大伍分館長　稲森雅生
北平分館長　山本安夫

～ふるさとに望む～

松山市　麓多久馬

美しい自然美の河辺、忘れることのできない、なつかしいふるさとの河辺、思い出多き河辺、あれを思い、これを考えても、ひとしお感慨無量のものがあります。

これからの山々は紅葉がすばらしく、一年中で一番よい季節の河辺だと思っています。

河辺を離れてはじめて〝ふるさと河辺〟のみなさんの一人〳〵のあの顔、この顔が頭の中に浮かび、なつかしさをかみしめています。

河辺村も、各種道路整備事業等により、各村落への交通網が完成し、また、多年の懸案であった中学校の統合と、それに伴う諸施設の整備事業も着々と完成し、伸びゆく河辺に敬意を表します。

また、小学校の児童減による整備事業等もあるかと思いますが、将来を考慮し、村民各位が、心を一つにして、諸事業を推進せられますよう祈念致します。

本年は統一地方選挙の年でありましたが、その選挙も終って、村民の皆さんも、ほっとしておられるのではないでしょうか。

河辺村民の家庭的雰囲気の中で、選挙中は、AとかBとかで、いろいろあったことかと思いますが、結果がわかれば、選挙中のことなど水に流して、村長を中心に村民一丸となって、郷土河辺村発展のため、努力していただきたいと思います。

最後に、松山の空から村民各位のご健康を祈念いたします。

やねばし

▼六十五才。老人クラブ一年生。「俺はまだ老人ではないのだ」と敬老会も欠席。山仕事に余念のない元気な人もいる。

山仕事もよいが年一回敬老会の一日、先輩ご老人のお世話をしてあげることも一年生として意義があるのではなかろうか。

▼老人をいたわる、老人を幸福にしてあげることは人生の先輩として当然であり老人が大切にされない国は文明国家とはいえないというもっともなことである。

▼大阪毎日新聞九月十二日、読者の広場欄に七十五才の佐々木さんという老人のかたが〝自立自尊の心構え〟という題で次のようなことを書いておられた。

「老人福祉にはおのずから限度がある。高福祉には高負担がともなう。今は何とかやっていけても孫の代まで膨大な負担をのこすことはしのびない。

バスもタダ、医療費もタダはありがたいが市町村の財政はいったいどうなるのか。医療費の一割負担程度は負担してはどうか。

老人は体力的にも経済的にも弱いが、社会奉仕や後進者への助言などできることはいくらでもある。いたずらにあまえることなく、なるべく人様のやっかいになるまいという(自立自尊)心構えをもちたいものである。

福祉を当然の権利などと思わず世間から少しでも尊敬される老人になりたい。」

頭のさがる思いでこの記事を読んだ。

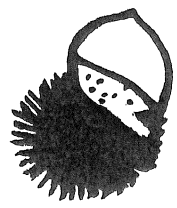
▼河辺老人クラブでもいろいろな事業が手がけられ社会奉仕に一役も二役もかっておられる。

道路や福祉、仏閣、公共施設の清掃、郷土を美しくする運動として川崎地区老人クラブでは道路の両側に爽竹桃の植樹が計画され、美しい花と緑の郷土作りを手がけられると聞く。

たのもしいかぎりである。

(船)

あすの農作業



「クリのカツラマルカイガラムシの防除」

(一) 生態

年二回の発生で、才一回目は六月中旬から七月下旬、才二回目は八月下旬から九月下旬に幼虫が発生する。

成虫は幼虫ふ化が終った時点で死滅するが、一母虫からの幼虫発生量はまだ明らかでないが百匹から三百匹に至たる。

才一回目発生虫は十月上旬頃にはほとんど死滅するが、才二回目の発生虫は一令幼虫から未成熟成虫の形で越冬し六月に幼虫のふ化が始まる。

(二) 被害

クリやナラ、クヌギその他雑木等の幹や枝に定着して養分を吸収する。

この虫の繁殖力は前述の通り旺盛で、かなり大きな栗樹でも初発生から三年も経てば樹冠の六～七割までカツラマルに覆われ、小枝などの枯れ込みが見られるようになり、五年も経つと大半が枯れてしまう恐しい害虫である。

(三) 防除法

防除法には幼虫発生期のビニフエート乳剤散布と冬期マシン油乳剤の散布があり、防除効果は冬期マシン散布が効果が高い。ただし、密度の高い栗園では、マシン散布と幼虫発生期の防除をしなければ密度を下げることは難かしい。

なお、散布技術上、一回の冬期マシン散布で完全に防除することは難かしく、一度カツラマルカイガラムシが発生した栗園では毎年冬期防除を忘れてはいけない。

マシン油乳剤の濃度は二十倍液とし十一月下旬から年内に、天気の良い日を選んで散布することが望ましい。一月散布は気温が低いこと及び虫が大きくなっていることなどから防除効果が低下する。

散布量は樹の大きさによって異なるので一様には言えないが、四方八方からかけむらのないように充分散布されたい。散布量の目やすとして、五～六年生の栗園で十アール五～六百リットルの液を準備しなければならない。

(四) カツラマル発生面積報告

冬期マシン油乳剤の散布に当っては、県補助事業となっており、若干ではあるが、マシン油代に補助金がつくことになっているので防除の徹底を図り、カツラマルの蔓延を防止しなければなりません。

そこでカツラマルの発生を見つけた場合はただちに、発生面積を農協、役場、農業改良普及所へ報告して下さい。

（大洲農業改良普及所）

◉農業委員きまる

任期　五〇・七・二
　　五三・七・一八

大森　豊　今井清信
稲田　勇　柿本義隆
請田　奨　本山清明
往見　守　石浦寿春
大野哲夫　田中五月
大見藤雄　松尾末広
長岡吉男　長岡稔延
山田邁膨　（以上十五名）

家庭看護の講習風景

ふるさとの昔ばなし

力もちの重衛門 (3)

この牛鬼は完全には死んでいなかったらしいが、皆が渕をのぞいてみても、いきもせんし、声もださん。目や鼻からガイに血が出よったゲナが、皆の者は、牛鬼ヤ死んだというのでメンメ(面々)に家に帰ったゲナ。

ところが、その後、牛鬼の血は河地川一杯になって流れて、火の川のようにみえたのでひところ火の川というたゲナ。

牛の血は七日七夜も続いたという。

ところが、八日目の朝、牛鬼は渕で一声ウドンだゲナ。そして、渕からハックリ上り、「一ツ田」という、あんまり広うもない、セマ手で、一人ハックリ、アバレ始めたゲナ。

組の者らは、不思議な奴じゃと陽ダル(月がのぼる)るまでみよったゲナが、とうとうほかの田へはゆかず、その田でアバレ死んだゲナ。ソンで、今でも小字が一ツ田となっとるんじゃゲナ。

重衛門はその晩からねたっきり。いっかな飯も喰わず、水も通らず、しとったゲナが二十一日目にヒョト起きて一杯の水を飲み、家族に言うた。「オラは今牛鬼にやられよる。たまらんのじゃ。ナンチャ悪いことをせん牛鬼を殺したのは、オラが悪かった。どうぞや、あの牛鬼を神にして祭ってくれ」と言うて息をひきとった。

その後、牛鬼と重衛門との格闘した現場の大びわの木の路のあたりに、夜な夜な幽霊となって現れ始めた。牛鬼の頭だけが血どろみとなって、路のまん中に座りよるので、寺の方へ廻り道して帰ったという者。又、びわの木附近を通りよると、牛の尻っぽで、顔や頭をピシャリ、ピシャリやられるので、どうしてもよう通らず山へはい上って、ようくもんたという者など、又ある人は牛鬼が毎晩家にやってきて、ウドンだり、雨戸を叩くので、ようねんという者、夢にみていけんという者等々、組中の者が牛鬼の亡霊に悩まされた。そこで組中が相談して、牛鬼の霊を、清竜明神として祭り、又、〝火の川〟というてからは、火災も多いので、〝河地川〟と改めたという。

牛鬼のかたみ、一本の太い角は、神殿にご神体として祭られはじめてから、牛鬼の幽霊は出なくなった。

角は、黒光りする、重たいものであったが、明治のはじめころ、どこからともなくやってきた浪人風の者が、清竜明神に出入りしよってから無くなったという。

（おわり）

—大洲高校"肱川分校"の紹介(1)—

肱川分校の実状については、地域の方にも知られてない点があるので紙上をお借りして特色をまとめました。

(一) 沿革　昭和二十三年九月、大洲農高の分校として設立。二十四年大洲高校の分校となり現在に至っている。

(二) 卒業生総数

四六七名。

(三) 授業日　一週間のうち、㈫～㈮の昼間四日制。一日の授業は六～七時間授業で松山東高の通信制も併修している。

(四) 三年間で実質卒業、四年生は「職場実習生」として就職、家事などにあたる。この制度が分校の特色であり「夜間定時制」と異なる。授業も三年間で終了し、卒業資格においても全日制と差はない。

(五) 経費は左のように非常に安い。

(1) 教科書は全学年無償給与される。ただである。全日制は二年間で約一二、〇〇〇円以上教科書代が必要である。

(2) 毎月の納入金

●分校……七七〇円
●全日制…約二～三、〇〇〇円
●私立高校…約八、〇〇〇円

(3) 入学金（一年入学時納入）

●分校……三五〇円
●全日制……七、〇〇〇円
●私立高校…七〇、〇〇〇円

以上の数字でわかるように肱川分校の授業料や納入金がどんなに低額であるか一目瞭然である。

(4) 修学奨励資金制度、四十九年から定時制生徒のみに適用月額三、〇〇〇円貸与だが無事卒業すれば返還しなくともよい。つまり「ただ」で貰えたことになる。本人所得が一年間に約八十三万円以下の者しか受給資格がない。夜間定時制の生徒の中には、右の所得制限以上の収入があって申請しても給付が受けられない人もおるとのことである。この制度は、中学校時代の成績は全く参考にしない。授業料や修学旅行積立金を納入しても毎月少し余るほどの金額である。

(六) 分校の授業　入学生徒の「学力」にみあった「無理のない学習」を基本にしている。

全日制のような「競争学習」でもなく、夜間定時制のような昼間労働後のクタクタになった身体にムチ打つ「ゆとりのない学習」でもない。全日制などでは考えられない「一学年一〇人前後」の少人数の生徒を対象にして「ひとりひとりを見つめ、ひとりひとりを伸ばす」ことを指導の基本としている。先般の調査でも、生徒数が少ないので授業中平等によく指名され、詳しく説明してもらえると答えた生徒が約3分の2もいた。また中学校の先生方に授業をみていただいたが「中学の時よりもよく指名されるし、活き活きと学習している」とご講評をいただいた。人数が少ないので「ねり合い確かめ合う」ことを理想としている。

(七) 施設は決して立派とはいえないが、肱川町、河辺村ならびに地域の方々の暖いご支援で年々充足する設備と恵まれた自然環境の中で「自宅から通学」できることは、経費の面からも、学習充実の面からいつでも分校についての認識を新にしたいと思う。〔以下次号につづく〕

〔肱川分校〕

河辺からの入学者状況

年度別	入学生数
45年	5人
46年	4人
47年	1人
48年	2人
49年	3人
50年	3人

入学生数
男3・女2
男0・女4
男1・女0
男2・女0
男2・女1
男3・女0

みんなの広場

—生涯の仕事と決めしヘルパー業はや二年は夢のごと過ぐ—

独居老人を訪問して

ホームヘルパー　上林ヨシ子

この歌の文句のとおり、毎日へたなバイクで村内を西に東に走りまわっているわたくしの姿を村民の皆様はよく見かけられることと存じます。

昭和四十八年七月、住民課長さん、民生委員さんで決められた寝たきり老人、独居老人の家庭をはじめて訪問する時、決心はしていましたもののやはり大変な勇気がいりました。

訪問の目的を話し、お話相手やマッサージ等してあげましたが、はじめは皆遠慮されお話もなんとなくぎこちなく時間のたつのが長くて精神的にまいってしまいました。あれから二年二ケ月、お世話していた方も六名(亡くなられ現在十二名(県の方針は六名位)の老人の方を訪問しております。

最近では、おたがいに気心も知れ「週に一回は必ず来てよ。」とカレンダーを目の前につるして待っていてくれる身障者のおばあちゃん。

「週二回来てもらって助かる。」と待っていてくれる目も耳も不自由な高令のおばあちゃん。

「できればわたしが死ぬまで来てよ。」というおばあちゃん等、毎日の訪問にも張合いができてきた今日、このごろです。

仕事の内容はそうじ、せんたく、つくろい物、ふとん干し、水くみ、炊事、行水の手伝い、マッサージ、お話相手等。（訪問する家庭によって多少は違います。）

仕事がかたずいてからいろいろお話相手をすることにしています。決って昔話、苦労話をされますが、長い年月風雪に耐えて生きて来られた老人のことばには重みがあり、お話を聞いているうちにも教えられることが多くあります。心身共につかれ果て社会のかたすみに心細く孤独に耐え、病弱にも耐えて生きておられる老人たちの手となり、足となって、少しでも生きる希みと安らぎをあたえてあげるべく、できるかぎりの努力をいたしたいと思っております。

公民館より「老人のことについて何か書いてくれ」と、言われ自信はありませんでしたが、ホームヘルパーの仕事について少しでも村民の皆様にご理解していただけたらと思い、つたないペンを走らせました。

今後ともよろしく御指導賜わりますよう伏してお願い申しあげます。

文芸

短歌

栗の花ホロ〳〵こぼれるこの夕べ　中本　文江
吾も寂しき齢とはなりぬ
病院の窓よりはるか冨士山
満月は冴え〳〵と山の端をいづ　名本　勅滋
鐘桜のかたえの銀杏色あせて
夕やけ空に蟬かすれなく
神なびの山なりに引く飛行雲の
秋空にきゆるをしばしみつむる　清水　菊江
緑濃く公害もなき山里に
曼珠沙華の花つらなりて咲く
夏仕事漸くすみて嫁きし子の
便り待ちつつ今日も精出す　関井恵美子
下駄箱へふたたび戻し眺めつつ
嫁ぎたる娘の赤きぞうりを
水やればささやく如く花はみな
生々と見ゆ夏の夕暮れ　角藤政千代

俳句

夏風邪やすぐに間に合う置き薬　船田　正路
水打ってある飛び石を渡り訪う
蘭の里土佐西谷は蟬しぐれ　井本　繁男

川柳

老木に幼き日々の傷の跡
サワガニとたわむれ通いし里の径

消息

（出生）おめでとうございます。　自七・十五　至十・十五

露内父盛光　長岡美智子
植松〃高則　木本宏美
寺籔〃玉喜　真田厚

（死亡）お悔み申し上げます。

出合　大見　渉（四二才）
稲谷　佐久間トメ（八三才）

編集室から

このたびの任期満了にともなう社会教育関係役職の方々には、大変お世話になりました。

厚く御礼申し上げます。

どうか今後とも、よろしく御協力の程お願いいたします。